

じゅっこう

光寿無量

旧年中は大変お世話になりました。
 守るべきものは守り、変えられるものは変えていく。時代に応じて新しいことにも挑戦していかうと思ひます。

本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

吉富山浄覚寺 寺族一同



第69号
(通算409号)

発行元
 浄土真宗本願寺派
 吉富山 浄覚寺
 大阪市平野区
 長吉長原3-1-10
 06-6790-8350

第24回浄覚寺いじり会をレポート

十二月二十二日、今回で二十四回目となる「浄覚寺こども会冬のつどい」を開催しました。学校行事と重なったり、インフルエンザで急遽欠席になったりと、例年より少なめの参加者でしたが、楽しく賑やかに過ごすことができました。

こども会のメインイベントであるお餅つきですが、昔ながらの道具を使っております。石臼と杵でついています。そのための餅米は、前日から水に浸けており、当日はかまどで湯を沸かし、その上のせいろで蒸すことでようやくお餅になつてくれます。かまどには火を使います。火の



管理から片付けに至るまで、裏方のお手伝いをしてくださるご家族がおられます。そのおかげで餅つきができていますこと、この場を借りて感謝申し上げます。
 お餅つきの後には昼食に豚汁とつきたてのお餅をいただきます。その後の制作には、手打ちうどんに挑戦しました。足で踏むことでコシを出すという本格的なうどん、皆には喜んでもらえました。

一人していると孤独感

二人していると劣等感

三人していると疎外感

仏さまといると安心感



御文章に聞く(第62回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

仏教語辞典



亡くなる直前に阿弥陀仏の極楽浄土に往生することを願念仏する様子から、いつしかこの状況になつたら死ぬ！、あるいは死んでいっていることに対して「お陀仏」というようになった。「この高さから落ちたらお陀仏だぜ」とか、「この魚はお陀仏だぜ。こりや昨日の魚だな『東海道中膝栗毛』」といった使われ方をしている。

お陀仏

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

一切の聖教章(五帖第九通)これによりて・南無とたのむ衆生を・阿弥陀仏のたすけまします道理なるがゆえに、南無阿弥陀仏の六字のすがたは・すなわちわれら一切衆生の平等にたすかりつる・すがたなりとしらるるなり、されば、他力の信心をうるといふも・これしかしなから・南無阿弥陀仏の六字のころなり、このゆえに・一切の聖教というも、ただ、南無阿弥陀仏の六字を信ぜしめんがためなりと・いうころなりと、おもふべきものなり、あなかしこ あなかしこ

された仏教書の総称です。しかし、単に「仏教書」といわずに、敬つて「お聖教」と呼び習わしてきました。天親菩薩は「聖教」とは、「最清淨法界等流の聖教」といわれて、「お聖教」は人智を超えたさとり智慧の言葉となつて私たちに届き、迷いの自覚すらもたない私たちに、さとりに向かわせ導いてくださる、尊い言葉であり、書物であると讃えられました。仏さまをはじめ、祖師方がさまざまに書物を著してくださった目的は、人びとに安らかなさとりを実現させるための一語に集約されます。ですから、すべての「お聖教」はその目的を実現してください。阿弥陀さまの本願のころを伝え、自力を捨てて南無阿弥陀仏を勧める一点に帰するといえます。蓮如上人は御文章で、浄土真宗が最上の法であることを示されたのでした。

行事案内

日時・令和七年一月一日(祝) 十四時より
行事・元旦会
場所・長原浄覚寺
法話・新發田恵司 先生(大阪)
新年のご挨拶をさせていただきます。ぜひご参拝ください。
(なお、一月の月参りは六日から伺います)

日時・令和七年一月十二日(日) 十四時より
行事・浄覚寺仏教婦人会 総会(会員のみ)
法話・当山住職
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

2月

第五回 仏教文化講演会
日時・二月十六日(日) 十四時より
講師・麻田弘潤 先生
テーマ・消しゴムはんこワークショップ
右下の「気になる仏教語辞典」の著者でもある麻田先生は消しゴムはんこの作家でもあります。お寺で消しゴムはんこを楽しみながら、仏教思想を学べるワークショップです。
ぜひお申し込みください。



編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。色々ありましたが、今年も無事に過ぎることができました。令和七年も宜しくお願い致します。(釋法蓮)
浄覚寺の公式LINEにぜひご登録ください。デジタル「じゅこう」をお届けします。

